

平成 26 年 5 月 25 日 主日礼拝

礼拝開始: 午前 11 時

オープン礼拝・春のバザー

司 会 : 平松章治兄  
 奏 楽 : 舘 節子姉  
 おいのり : 加藤由美子姉  
 さ ん び : 新聖歌 22「御神の愛をば」1. 2. 3 節  
 主の祈り  
 聖 書 : コリント人への第一の手紙 10 章 12~13 節(P.267)  
 (朗読: 大神久美姉)  
 映 像 : 声を失った天才テノール歌手  
 ベー・チェ Chorl 物語  
 メッセージ : 「奇跡の歌」 倉知 契牧師  
 さんび と 献金 : 新聖歌 233「驚くばかりの」  
 頌 栄 : 新聖歌 63「父御子御霊の」  
 祝 禱  
 報 告

【瀬戸ニュース】

- ◇ 今日は楽しいバザー。皆様を心から歓迎します！  
 受付で食券(100円と50円)をお求めください。  
 混雑しますが、お荷物・貴重品は自己管理で。
- ◇ 毎週日曜朝11時~礼拝があります。憩いの時。
- ◇ 6月29日(日)の持ち寄り音楽会Part4をお楽しみに。
- ◇ 参加くださった皆様に感動の小冊子を贈呈中。
- ◇ 祈禱会 木曜10時半/土曜掃除10時半/祈禱会11時15分
- ◇ 祝大 Aコース ヨハネ6章~9章  
 Bコース 列王紀下20章~歴代誌上13章

◇次聖日礼拝奉仕者 [平成26年6月1日]  
 [司会: 赤塚敏郎兄、いのり: 持田樹理姉、聖書朗読: 大神久美姉]  
 [ピアノ: 小島明美姉 & 池田 愛姉 賛美リード: 小島 誠兄  
 アシスト: 大神美乃姉、武藤詩奈姉  
 [献金: 大神久美姉、受付: 下岡晶子姉]  
 ◇PA: 平松章治兄                      ◇週報編集: 片岡洋一兄  
 ◇ホームページ編集: 大神真伸兄      ◇日曜学校: 倉知 契牧師



「青春とはある時期を言うのではなく、夢のあるうちが青春である。20代の老人がおり、80代の青年がいる。」

サムエル・ウルマンの詩「青春」の一節

明日から一日一日、年をとると考えれば、今日が一番若い日。だったら今から「青春を始めよう！」というのはいかがでしょう。ある牧師が特別養護老人ホームを訪ねたら、入口にこんな言葉が掲げられていたそうです。

- 60歳は人生の花
- 70歳で迎えがきたら「留守」と言え
- 80歳で迎えがきたら「早すぎる」と言え
- 90歳で迎えがきたら「急ぐな」と言え
- 100歳で迎えがきたら「ぼつぼつ考えよう」と言え

この瀬戸カルバリーチャペルには101歳の深見さだ子さんがいらっしゃいます。先週老人ホームをお訪ねしたら、頭もしっかり、細かい字を読んで、一緒に新聖歌を歌いました。この敬愛する大先輩に習って、私たちも日々新しく生活いたしましょう。「人生志を立てるのに遅すぎると言うことはない」(明日のための戦略・ポールドウィン著)。あなたの賜物や特技を、ぜひ教会で花咲かせてください。バザー・出店・持ち寄り音楽会・礼拝奉仕。すべて皆様の活躍で支えられています！

ところで私は高校時代から、銀座や秋葉原といったところのレコード店に通い詰めては、中古のレコード・CDを見て回るのが好きでした。掘り出し物を見つけたときの感動はひとしお。バザーが楽しい訳はきっと、掘り出し物への期待感と、もうひとつは、誰かの家の押入れの奥で眠っていた逸品が、新しい持ち主によって再び輝きを取り戻すという、敗者復活的な気分を味わえるから。そんな高校時代、私は自分のことを「ゴミ袋の生ごみ」と思っていました。臭くないように一応袋に入っているけれど、中身はけして人に見せられない腐った人間だと、本気で思って歌まで作りました。でも、17歳のある日、「新しい持ち主」に出逢い、私は「生ごみ」でなく「宝」だと知ったのです。あれが私の青春で、今日までそれが続いています！

「倒されても滅びない」のフィリップス (IIコリント四の九)

ノックダウンされることであっても、ノックアウトされることはない。